

コラム

リテラシーで読む震災と日本社会

計量分析ユニット 永富 悠

本稿は、日本で理系教育を受けた者として、地震発生から福島第一原発事故、電力供給逼迫問題に至る一連の事象に関して感じたことを「リテラシー」というテーマで、コラムとしてまとめたものである。

---

マグニチュード、1F、ECCS、メルトダウン、BWR、原子炉格納容器、ベント、<sup>131</sup>I、<sup>137</sup>Cs、半減期、Bq、Sv、MOX、kW、kWh、再臨界…

拙稿を読んで頂いている皆様は上記の言葉をご存知だろうか。何を今更と言われそうだが、これらを震災以前から知っておられる方は、いわゆる理系の方であろうと推測される。震災後、これらの言葉が紙面や画面を飾る状況と、それに踊らされる人々の存在が私には強く印象に残った。これが本稿で「リテラシー」をテーマにした最大の動機である。

これに関連して、私の身の回りで象徴的な出来事が二点あった。1つ目は、1Fのトラブル発生時に、某有名大学で理系教育を受けた友人複数名から何度となく原発の安全性に関する質問を受け、相談に乗ったことである。一定レベルの科学的知識を得たはずの友人が、断片的ではあるが時々刻々伝えられる情報の咀嚼に苦慮し、困惑している状況は、私にとって新鮮な驚きであった<sup>1</sup>。2つ目は、節電対策の議論におけるkWとkWhに関して、一般の方はもとより、ジャーナリズム、時には我々含む“いわゆる”専門家でさえも両者を混同して議論している場面があったことであった。さすがにこの時は、この国の科学的リテラシーはどうなっているのかと愕然とした思いであった<sup>2</sup>。

そもそもリテラシー (literacy) とは「読み書き能力。また、ある分野に関する知識やそれを活用する能力」<sup>3</sup>のことである。私自身は、リテラシーとはある物を理解するために必要な能力・ツールであり、未知のものを解釈する際に重要な役割を果たすものであると理解している。その意味で、先に挙げた二つの事例は、ある種のリテラシーの欠如に他ならないのではないかと考えている。リテラシーがあれば、今回のような未曾有の事態に遭遇した場合においても右往左往せずに対応できた点はあるだろうし、これから検討される復興対策に関しても、甘言にほだされた実現可能性の低いものや、本来の目的を見失った見当

---

<sup>1</sup> 原発に関する知識というよりも、政府が情報を隠しているのではないかという疑心もあったようだが。

<sup>2</sup> 2009年OECD諸国生徒の学習到達度調査(PISA)では、日本の科学的リテラシーは参加国中5位。

<sup>3</sup> 大辞林、三省堂

違いなものになるような事態を避けられるのではないかと考えている。

一方で、リテラシーが障害になる事例もある。一連の事故に関して、原子力業界の閉鎖的な環境を揶揄した表現として「原子カムラ」という言葉がメディアで用いられていた。原子力が技術的に高度なものであるために、これを解するリテラシーの有無が業界を取り巻く障壁となり、やがてムラとも呼ばれるような雰囲気を持つ世界を作り上げてしまったということであろう。少し古いがまさにバカの壁ではないだろうか。

説明しても理解出来ないだろうから都合の悪い話は曖昧にしか説明しない。説明されても理解出来ないから都合の悪い話は耳を塞いで聞こうとしない。これからの日本社会は、このような互いに相容れない極端な 0, 1 の世界ではなく、リテラシーを持ってコミュニケーションを図っていくような社会に進んでいくことを期待したい。3.11 はそんな社会へ進むための転換点であったと語るができるように、私も一研究者として努力していきたい。硬直化した象牙の塔に閉じこもることなく、微力ながらアウトリーチ活動も推進していければと考えている。未曾有の危機を経験した今こそ、リテラシーで以てオルテガが言うような大衆像<sup>4</sup>を脱し、国民全体で山積する課題を乗り越えていくことで、新たな社会を築いていかなければならない。

#### 【蛇足】

kW は「速さ」、kWh は「距離」と考えればわかりやすい。つまり、

---

40km/h 出せる車（発電所＝電気の系統）があります。電気を使う皆さん（家、ビル、工場など）は、それぞれその車のアクセルを踏んでいます（電気を使っている）。40km/h 以上出そうとすると車（発電所＝電気の系統）は限界を超えて、進まなくなります（停電）。その車で進んだ距離が電力量（kWh）にあたり、ある時点での速度が電力（kW）です。スピード違反は厳禁です（ピーク対策）。不必要な長距離運転は避けましょう（節電）。

---

こんな表現で伝わるだろうか<sup>5</sup>? 分かりやすい説明を池上彰氏に学びたいところだ。

以上

お問合せ : report@tky.ieej.or.jp

---

<sup>4</sup> ホセ・オルテガ・イ・ガセト : 「大衆の反逆」 (La rebelión de las masas), 1929 年

<sup>5</sup> 同僚 H 氏の案を加筆修正